

2月16日、町内小学校の4年生を対象に「二十歳の君に」2分の1成人式が開催されました。二十歳の時にはプロ野球選手になっている「看護師や獣医の勉強をしている」など、それぞれの夢を語る児童たちを頼もしく思うとともに、夢が叶うようしっかりと応援してはならないと、改めて思ったところです。

本町の地方創生の取り組みは、総合戦略の計画期間の半ばを過ぎようとしていますが、この間、さまざまな取り組みを進めてきた結果、宝島社が発行する「田舎暮らしの本」2月号に「住みたい田舎ベストランキング」で、「若者、子育て、シニア」の3部門で引き続き中国エリア第1位を獲得しました。

しかし、本町の経済情勢は依然として厳しく、あらゆる産業分野で人材が不足しています。

幅広い視野を持ち、そして地道に、職員一人丸となって全力で取り組みます。「飯南町で暮らすことを幸せと実感できる」まちづくりのために。

造し、利用促進を図ります。全国和牛能力共進会は、次期全共に向けて、産子の保留、若手育成を進めます。

鳥獣被害防止対策は、防護柵設置や捕獲器導入などを進めます。また、狩猟免許の取得を支援し、後継者の育成・確保に努めます。

林業振興は、「森林資源活用による林業の魅力づくりプロジェクト」を立ち上げ、資源の実態調査、市場調査、商品開発に取り組めます。

観光振興は、7月の出雲大社神楽殿の大しめ縄のかけ替えにあわせ、燃りあわせ作業や奉納などを全国に向けてPRし、10月に町内で開催される「全国相撲甚句大会」とあわせて、町の歴史文化や地域食材、観光資源などを情報発信し、知名度向上につなげます。

平成29年度のふるさと納税額は、過去最高の1億2千万円となる見込みです。今後もより一層、地場産品の魅力をPRし、産業の活性化に繋がります。

商工業振興は、若者の起業や就業を推進するため、産業界やセンターなどにより、創業前後を幅広く支援します。また、町内企業などと連携して「学生ツアール」を実施し、あらゆる産業分野の人材確保を進めます。

平成30年度施政方針

「飯南町で暮らすことを幸せと実感できる」まちづくり



保健・福祉

- 健康づくりの推進
- 地域医療の充実
- 地域包括ケアの推進
- 地域福祉の充実
- 高齢者などにやさしい環境づくり

地域ぐるみの健康づくりを重点に取り組みます。新たに、健診受診率が前年と比較して高くなった地区にも特別賞を贈り



飯南町長 山崎 英樹

主要施策

自治・協働

- 協働のまちづくりの推進
- 小さな拠点の形成
- 地域おこし協力隊・集落支援員の配置
- 「集落実態調査」を実施し、その地域の今を見える化し、住みなれた地域で安心して暮らせる地域づくりにつなげます。また、次世代を担う若者が、積極的に地域づくりに関わる事例も芽生えており、その活動を支援します。
- 来島拠点複合施設は、建物の設計や造成工事などに着手します。

教育・文化・子育て

- 子育てしやすい環境づくり
- 縁結びの支援
- 保小中高が連携した学校教育の充実と飯南高校支援
- 平等に暮らせる社会づくり
- 桜ヶ台保育所で「産休明け保育」を導入するため、必要な施設整備を行い、保育士の体制が整い次第開始します。また、保育士確保のため、「就職支度金」「修学助成」などの制度を創設し、社会福祉協議会と連携して保育士の確保を進めます。
- 縁結びについては、出会いの場づくりの交流イベントや独身者のセクソスアップセミナーの開催、結婚祝い金などで支援します。
- 保小中高一貫教育の第2ステージとして、保育所から大学・専門学校まで、将来を見据えた教育と人材育成を進めるため、教育魅力化推進員「統括プロデューサー」を配置し、学校・家庭・地域・行政が一体となって教育を推進し、教育移住につなげ

ます。「人権施策推進基本方針」を改定します。策定から10年が経過しているため、改めて町民意識調査を行い、人権問題に対する意識の変化を把握し、差別のない明るい社会づくりを進めます。

産業

- 農林業の振興
- 観光の振興
- ふるさと応援寄附金
- 商工業の振興
- 「飯南米」の品質向上と有利販売に努め、知名度向上につなげます。また、「飯南町1農場1担い手」の実現に向け、「農業担い手支援センター」を中心に、集落営農の広域連携や農業法人の設立を推進します。
- 園芸振興は、上赤名・頓原地区の新規就農者が取り組む、パプリカ・トマトなどの生産拡大をリースハウス制度で支援します。また、新規就農者が農業者として定着できるよう、経営・技術・生活面の指導、相談役として、「新規就農アドバイザー」を配置します。
- 畜産振興は、改修が完了した堆肥センターで良質な堆肥を製

ります。働き盛り世代の健康づくりは、保健師が事業所を訪問して相談支援を行い、企業と従業員が一体となって、健康に働ける環境づくりや生活の質の向上につなげます。

NHKの「夏期巡回ラジオ体操」が、8月16日に頓原町民グラウンドで開催されます。開催を契機に、健康への意識を高め、生活習慣の改善やスポーツ活動の促進に努めます。

医療では、角田院長が掲げる「総合医による地域医療を推進、継続的な課題である医療人材の確保に取り組めます。また、福祉施設の介護職員の不足も課題となっています。町内福祉施設代表者で構成される「福祉施設協議会」と「人材確保支援センター」が連携して人材確保を進めます。

「長生き体操」は、現在41地区465人に広がり、健康づくり・介護予防事業として定着しています。体操の合間には、お口の健康づくりや栄養、食生活、認知症予防の啓発を盛り込み、「運動、栄養、口腔の三本柱の介護予防」を推進します。

高齢者が安全・安心に生活を続けられるよう、緊急通報システムの充実、冬期宿泊センターなど住まいの確保、大雪時の除雪費支援など、小さな拠点づく

生活環境

- 定住の促進
- 公営住宅の整備
- 公共交通の充実
- 簡易水道・下水道の整備
- 道路網の整備
- 中山間地域整備事業
- 情報通信施設の整備
- 防災行政無線施設の整備
- 携帯電話不感地域解消
- 消防防災対策の充実

公営住宅整備は、建設中の新衣掛団地1号棟に続き、2号棟の建設と3号棟の設計を行います。

公共交通は、昨年10月から頓原・来島地区でデマンドバスを本格運行し、志々・赤名地区では、実証運行を開始しました。引き続き、利用実態や課題を整理し、利便性の向上に努めます。

水道施設は、佐見地区水道整備、中央監視装置の整備移転などを進め、下水道施設は、合併処理浄化槽の設置を進めます。道路整備は、改良中路線の進捗を図り、駐車場川原線、頓原寺沢花栗線は工事に着手し、松本酒谷線は設計に着手するほか、橋梁長寿命化、法面対策、除雪の車輛の更新など、生活道の安全確保を進めます。

情報通信施設の整備として、インターネットの光回線への更新工事を赤来地域から着手します。また、上赤名北野地区の携帯電話の通信環境を改善します。